

早いもので熊本地震から4年が経過しました。その後、復旧・復興が進み、応急仮設団地は縮小、災害公営住宅へ移行しています。県のシンボル、熊本城も少しずつ復旧し、「ONE PIECE 熊本復興プロジェクト」など明るい話題も増えてきた矢先、春先に新型コロナウイルスが猛威を振るい、それがやや落ち着いてきたところへ今月7月4日以降、熊本、鹿児島で記録的な豪雨となり、低い土地の浸水、河川の増水・氾濫、土砂災害が発生、予断を許さない状況が続いています。災害はいつ起こるかわからないと実感しています。

熊本地震を振り返ると2016年4月14日夜9時26分の前震、16日深夜1時25分の本震は最大震度7であり、それらに立て続けに襲われた瞬間は恐怖そのものでした。私自身は被災しなかったため、4月24日よりJRAT

熊本本部で東京本部、熊本県庁医療救護調整本部との連絡や活動部隊の派遣調整に携わりました。

その後JRATは2018年3月30日まで活動して撤退、業務は熊本復興リハビリテーションセンターに引継がれ、現在も一部地域では応急仮設住宅で地域支援活動が続いています。地元を襲った大地震の恐ろしさと災害支援の重要性を経験し、JIMTEF（公益財団法人 国際医療技術財団）の研修やJRATの研修を受講し知識を高めました。

しかし、地震、水害、台風……、災害はその後も収まることなく各地で猛威を振るっています。

西日本豪雨災害では、岡山県のJRAT本部運営支援に派遣されました。

2019年10月に上陸した台風19号も、関東地方や東北地方の広域に甚大な被害を与えました。このときも福島県庁内に設置されたJRAT本部に赴き本部運営支援を行いました。いろいろな災害を現地で経験したことで、本部運営の重要性を感じています。

私が当協会理事、PTOTST委員に選ばれたのはセラピストマネジャー研修の1コマで「セラマネの取得が熊本地震で活かされた」体験を語ったことでした。セラマネの講義が災害の本部運営で役立ったという内容で、多職種連携と組織マネジメント、労務管理、「人と人とのつながり」が支援

の重要なポイントになったことを伝えました。

熊本地震後の復旧・復興プロセスの県外支援者は当協会の会員病院の方々、セラマネ仲間や顔見知りの方々が多く、本当にありがたく心強く、「つながっているのだな」と実感しました。回復期リハビリテーション病棟協会は、災害に強いネットワークがある組織といえると思います。

いつどこで起こるかわからない災害。日頃より「準備しておく」心構えが重要であると考えます。

巻頭言

災害に強い組織

～日頃の準備と心構えを～



えせん
山本 恵仙

当協会理事 PTOTST委員会委員（熊本託麻台リハビリテーション病院 リハビリテーション部長、言語聴覚士）